

学習成果の自己評価〔キャリア開発総合学科〕

キャリア開発総合学科では、学生の学習成果を量的・質的データとして、GPA 分布、学位取得率、単位修得率、資格取得率、国家試験合格率、就職率、を定量的指標とし、学習成果の自己評価、学生による授業評価、卒業生アンケート、雇用者へのアンケートなどを定性的指標として測定する仕組みにしている。(備付-13、14、16、34、27)。

令和4年度は、165名が短期大学士(総合キャリア学)の学位を取得(取得率99.3%)した。以下に示す図表は、令和4年度卒業生の単位取得、GPA分布、資格取得に関する状況である。単位取得については、介護福祉士養成課程及び製菓衛生師養成課程の単位数が特異のため、介護福祉士養成課程履修者9名、製菓衛生師養成課程履修者13名を除く143名の状況である。卒業に必要な最低ラインである62単位から79単位の範囲で、平均70単位、中央値は66単位であった。取得率が最も高かったのは、64単位であった。

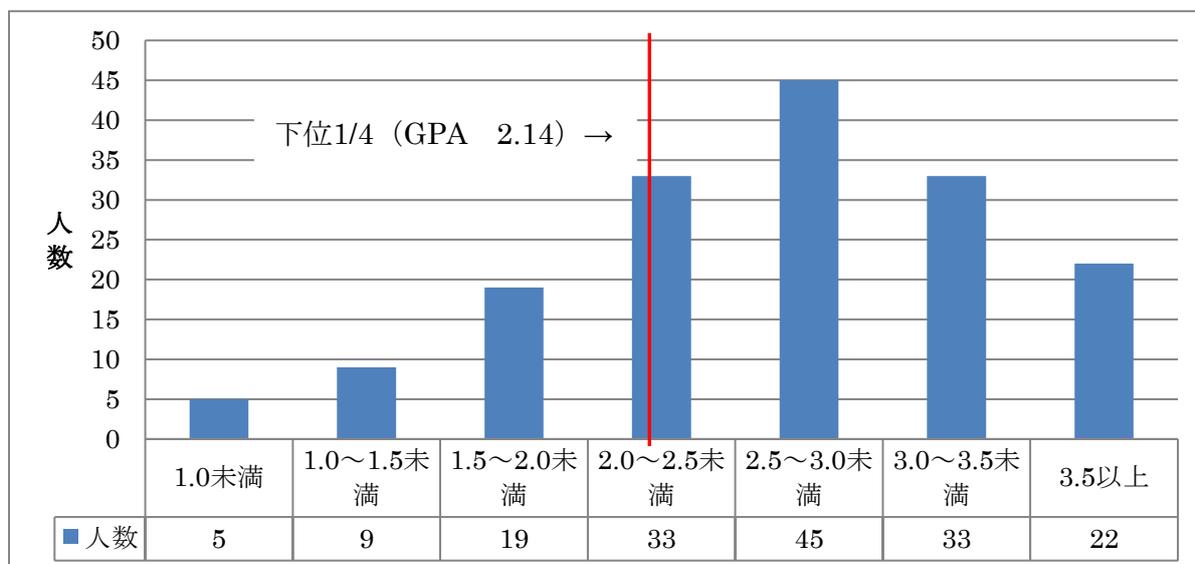
GPA分布は、2学年次(学生数166名 下位1/4=42人)、平均値2.62、中央値2.74であった。

<令和4年度卒業生の単位取得状況>

n = 143

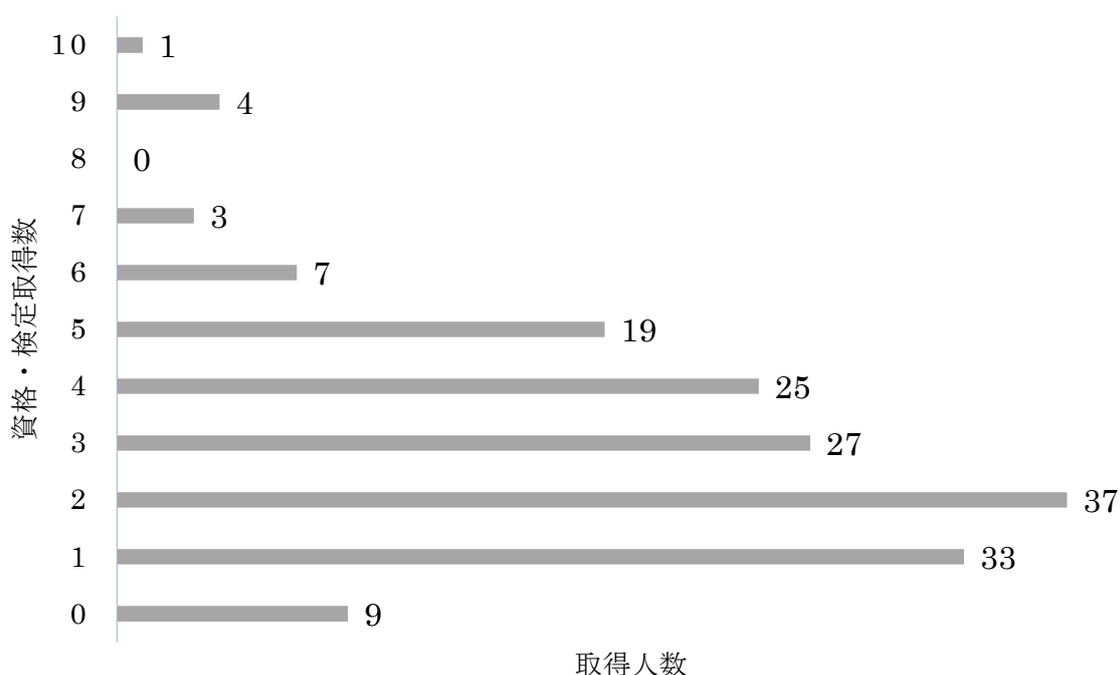
取得単位数 (単位)	取得者数 (人)	取得率 (%)	取得単位数 (単位)	取得者数 (人)	取得率 (%)
79	1	1%	69	9	6%
77	3	2%	68	17	12%
76	4	3%	67	13	9%
75	1	1%	66	12	8%
74	3	2%	65	17	12%
73	4	3%	64	19	13%
72	4	3%	63	16	11%
71	4	3%	62	12	8%
70	4	3%			

<令和4年度卒業生2学年次のGPA分布>



資格検定の取得状況としては、一つも取らない学生から最多で 10 種の資格を取得した学生もいる。9 割以上の学生が何らかの資格を取得している。国家資格の介護福祉士は、資格登録者 9 名、うち 7 名が国試に合格した（国試合格率 77.7%）、製菓衛生師は、11 名（国試合格率 84.6%）、司書は、26 名が卒業時に有資格者となった。その他の各種資格・検定取得の詳細は、備付資料-34 にまとめている。

<令和4年度卒業生の資格・検定取得状況>



次に、在学中に2回実施しているPROGの結果を以下の表に示す。ペーパーテストで測定できる「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」「構想力」に対応しているとされているリテラシーは、総合としてプラスの結果が得られた。自分にベストな状態をもたらそうとするコンピテンシーは、総合として、1年次より2年次の方が約0.1ポイントマイナスとなった。コンピテンシーの3つの力のうち、学習視点・機会による自己変革、主体的行動と関連する自信創出力、持続行動力に上昇がみられた。令和3年度及び令和4年度は、コロナ禍によりオンラインでの授業が主だったり、実体験をする機会が制約された影響があると考えられる。学生には、個々の結果が戻され、解説を受けることで、自分の強み・弱みを認識、再発見する機会となっている。

<R4年度卒業生のPROGによるリテラシー・コンピテンシーの結果>

リテラシー		1年次	2年次	差
総合		3.43	4.06	0.64
4つの力	情報収集力	3.04	3.82	0.79
	情報分析力	2.65	3.08	0.43
	課題発見力	2.81	3.19	0.38
	構想力	3.01	3.19	0.18
処理能力	言語処理能力	2.70	3.03	0.32
	非言語処理能力	2.47	2.79	0.32

コンピテンシー		1年次	2年次	差	
総合		2.56	2.48	-0.08	
3つの力	対人基礎力	2.94	2.76	-0.18	
	対自己基礎力	2.71	2.96	0.25	
	対課題基礎力	3.26	3.20	-0.06	
9つの要素	対人基礎力	親和力	3.45	3.37	-0.08
		協働力	3.15	3.07	-0.08
		統率力	2.38	2.27	-0.11
	対自己基礎力	感情制御力	2.76	2.71	-0.06
		自信創出力	2.52	3.03	0.52
		行動持続力	2.96	3.14	0.18
	対課題基礎力	課題発見力	2.94	2.86	-0.08
		計画立案力	3.50	3.37	-0.13
		実践力	3.39	3.49	0.10

学習成果の自己評価については、複数の科目の組み合わせによる領域を設定し、かつ、学生が自分の成長を把握しやすくするため、調査の間隔を、令和元年度より従来の1年毎から半年毎とし、実施している。全学生が回答する【全体】と各自のユニット・科目選択に合わせて回答する【各系】における学習成果について、レベル1:「全くできない」、レベル2:「3割できる」、レベル3:「5割できる」、レベル4:「7割できる」、レベル5:「8割以上できる」の5段階で評価している。

概観すると、全ての領域において1年次前期よりも2年次後期の平均は高い。学年が上であることと、自己評価の数値の高低に相関があることがうかがえる。全学生を対象とした「ヒューマンスキル」については、(2)「挨拶、時間管理、責任感など、社会人に相応しい基礎的なマナーを理解し、実行できますか」は、1年次に比して、2年次での向上の傾向が見られ、授業内外を通しての日常的に充実したマナー環境が影響を与えているのではないかと推察できる。これは、前年度と比較しても同様の結果であり、学内での取り組みが常時高い水準で機能していることを反映していると思われる。更に(3)「PCを使って文章作成を行ったり、プレゼンテーションを行ったりできますか」は、1年次前期が低く、

1 年次後期への向上が顕著である。これは、1 年次前期の授業では、コロナ禍にあつてオンライン授業などの割合が増えており、対面とは異なる環境下で、やや、不自由な学びがあつたためと想定される。

製菓系は全般的には、1 年前期終了時点で 3.0 前後で 2 年次後期には 3.5 前後であるが、グループでの協力を含めた総合的な力は 4.0 となつた。観光系は全般的には、1 年前期終了時点で学習内容にバラつきがあるものの、2 年次後期には 3 点台後半になり、順調に推移していると言える。旅行会社のプランナーは、人数が少ないため、極端に低い点数が大きく反映し、2.8 となつた。カフェ・フード系は全般的には、1 年前期終了時点で 2.3 から 3.3 とバラつきがあるが、2 年次後期には概ね順当に数字を上げている。ファッション系は全般的には、1 年前期終了時点で 3.0 前後から、2 年次後期には概ね順当に 4.0 以上へ数字を上げている。これは、前年度と同様の傾向であり、技術的な向上を意識しやすいことが考えられる。スポーツ系は全般的には、1 年前期終了時点の 3.0 から、2 年次後期時点での 3.5 前後と、順調に推移している。司書・公務員系は全般的には、1 年前期終了時点で 3.0 未満もあり低いが、2 年次後期には 3.5 以上となり順当に数字を上げている。ビジネス情報・金融系は全般的には、1 年前期終了時点で 3.0 程度だが、2 年次後期には 3.7 程度へと順当に数字を上げている。医療事務系は全般的には、1 年前期終了時点で 3.0 程度だが、2 年次後期には 3.4 から 4.0 へと概ね順当に数字を上げている。介護福祉系は全般的には、1 年前期終了時点で 2.8 から 3.2 と低いが、2 年次後期には概ね 4.0 以上と数字を上げている。実習を中心とした系の場合には、成果を実感しやすいものの、スポーツのように実感がダイレクトに反映しやすい場合には、活動への負荷が強まった状態では、相対的にパフォーマンスの達成度が下がってしまうのではないかと考えられる。介護福祉士のように 2 年かけ周到な教育を行った場合には、高い成果になりやすいと考えられる。

<令和4年度卒業生の学習成果の自己評価>

【全体】

		1年次		2年次	
		前期	後期	前期	後期
ヒューマン ンスキル	1. 計画・実行・改善を意識して取り組む	3.3	3.4	3.4	3.5
	2. 挨拶、時間管理、責任感等の基礎マナー	3.7	3.7	3.9	3.9
	3. PCによる文書作成、プレゼンテーション	3.2	3.7	3.4	3.5
	4. 資格・検定取得の目標への進捗	3.0	3.3	3.5	3.7

【系別】

		1年次		2年次	
		前期	後期	前期	後期
製菓系	1. 栄養と健康の理解と説明	2.9	3.2	3.7	4.2
	2. 菓子の文化・歴史、店舗の現状理解と説明	2.8	2.9	3.3	3.8
	3. 和洋菓子、パンの種類や基本製造の理解説明	2.8	2.9	3.6	3.9
	4. 公衆衛生と衛生管理の理解・説明・実践	2.9	3.1	3.9	4.2
	5. 食材の特性、仕事の意義の理解・説明・実践	2.9	3.1	3.6	4.0
	6. 協同作業の重要性、企画から販売までの過程の理解・実践	3.1	3.3	3.7	3.9
観光系	1. ホスピタリティの理解・実践	2.9	3.1	3.1	3.6
	2. ホテル組織・各部門の役割の理解と説明	2.8	2.9	3.1	3.6
	3. 多様化するブライダルニーズへの独創的発想	2.4	3.1	3.3	3.5
	4. 観光全般の理解・説明	2.8	2.7	3.1	3.5
	5. 旅行プラン作成・添乗員の役割の理解・説明	2.3	2.3	3.0	3.6
カフェ・ フード系	1. 栄養と健康の理解と説明	2.8	2.9	3.1	3.5
	2. 食文化、各種テーブルマナーの理解・説明・実践	2.7	2.9	3.5	3.5
	3. 外食・飲食産業の歴史・文化の理解・説明	3.2	3.5	3.1	3.6
	4. 飲食サービスの意義、方法の理解・説明・実践	2.9	3.1	3.1	3.7
	5. 飲食業での調理技術、飲料方法の理解・説明・実践	2.8	3.3	3.4	3.8
ファッ ション系	1. アパレル業界の流通のしくみの理解、消費者ニーズにあう助言の実践	3.1	3.2	3.3	3.4
	2. 型紙作図、縫製の理解、衣服作製ができる	3.4	3.3	2.8	3.3
	3. 企画に合わせたデザインの提案、動作・メイクの実践	3.2	3.0	3.1	3.4
	4. 皮膚と化粧品品の理解、メイクアップ技術の獲得	3.4	3.4	3.1	3.6
	5. 爪、衛生管理、材料の理解とネイル検定への挑戦	3.4	3.4	3.4	3.8

		1年次		2年次	
		前期	後期	前期	後期
スポーツ系	1. スポーツの意義の理解・説明	3.0	3.3	3.0	3.6
	2. 健康づくり運動の意義・方法の理解・説明、実技指導	3.2	3.2	3.3	3.7
	3. 発育発達時の運動の理解・説明、実技指導	3.3	3.3	3.4	3.7
	4. 運動の心理学的効果の理解・説明、グループの相談	3.2	3.4	3.2	3.4
	5. 身体に関する基礎知識の理解・説明	2.9	3.1	3.2	3.5
	6. スポーツ実技で扱う各種目の特性の理解・説明	3.3	3.3	3.1	3.5
司書・公務員系	1. 生涯学習と図書館の歴史の意義、課題の理解・説明	2.7	2.9	3.0	3.4
	2. 図書館サービスの意義、方法の理解・説明・実践	2.9	3.3	3.2	3.7
	2. 資料組織の意義、方法の理解・説明・実践	2.8	3.0	2.9	3.5
	4. 公務員の業務の理解・説明	3.0	3.4	3.2	3.4
	5. 公務員に必要な教養を持ち、試験に対応できる	2.7	3.1	3.1	3.3
ビジネス情報・金融系	1. 業務・対人のスキル・知識の理解・説明・実践	3.3	3.4	3.5	3.5
	2. 知識、スキルを活用した課題解決ができる	3.3	3.5	3.5	3.6
	3. 情報処理の基本知識・スキルの理解・説明・実践	3.3	3.3	3.4	3.5
	4. 情報処理知識、スキルを活用した課題解決ができる	2.9	3.0	3.3	3.5
	5. ゴール設定に向けた資格検定対応ができるか	3.5	3.6	3.4	3.7
医療事務系	1. 基本的な体の仕組み、医療用語の理解・説明	3.4	3.5	3.5	3.6
	2. 医療保険制度、負担、給付の理解・説明	3.6	3.65	3.6	3.7
	3. 個人情報保護と診療記録の・説明、診療報酬の算定ができる	3.6	3.7	3.6	3.9
	4. 基本的な接遇マナーで接することができる	3.3	3.4	3.6	3.8
介護福祉士系	1. 老化、認知症、障害等の理解・説明	2.5	3.0	3.0	3.8
	2. 介護福祉士に求められる役割・専門性の説明	2.5	2.7	2.9	3.9
	3. 人間関係、チームコミュニケーションの説明・実践	2.6	2.8	3.2	4.1
	4. 本人主体の支援の知識・技術の理解・説明・実践	2.5	2.9	3.1	4.1
	5. 課題解決に向けた思考・判断・実践の姿勢が身につく	2.2	2.6	3.0	3.9
	6. 研鑽、探究を継続する意義、自己の介護福祉観	2.5	2.6	3.0	4.0